

■全学ニュース

次期総長予定者として保健科学研究院特任教授の寶金清博氏を選出

次期総長の選考が行われ、保健科学研究院特任教授の寶金清博氏が次期総長予定者として選出されました。

本選考は、国立大学法人北海道大学総長選考会議規程に基づく所定の手続きを経て、9月2日（水）開催の総長

選考会議において、同会議委員の合議及び投票により行われたものです。

なお、任期は文部科学大臣の任命日から令和8年3月31日までとなります。

（総務企画部総務課）



寶金清博氏

卒業生動画「北大人群像～フロンティア精神の体現者たち～」第一弾を公開

総務企画部広報課では、卒業生動画「北大人群像～フロンティア精神の体現者たち～」を本学公式Webサイト及び公式YouTubeチャンネルにて公開しました。

本動画は、本学卒業生の生の声や実

体験を通じて特に受験者層に本学の魅力をお伝えすること、さらには広く受験生層が自ら進むべき道を考える一助となることを目的に制作したものです。

第一弾で公開した卒業生の皆様は以下の5名です。

本動画では今後も多彩な卒業生を紹介していきますので、ぜひご覧ください。

（総務企画部広報課）

氏名	（卒業年及び学部等）	〔ご職業〕	※敬称略
藤村 忠寿	（1990年法学部卒）	〔北海道テレビ放送（HTB）エグゼクティブ ディレクター〕	
斉田季実治	（2000年水産学部卒）	〔NHKニュースウオッチ9 気象キャスター〕	
蒲田 健	（1991年文学部卒）	〔パーソナリティ／ナレーター〕	
栗原 道平	（1979年経済学部卒）	〔信濃川ウォーターシャトル 代表取締役社長〕	
毛利 衛	（1972年理学研究科修了）	〔日本科学未来館館長、元宇宙飛行士〕	



基幹Webサイト
インタビューページ



取材時の様子：毛利館長（左）と
寒川美奈総長補佐（右）



卒業生動画 第一段メンバー

全学ニュース

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動をするとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報

基金累計額（8月31日現在）

27,881件 5,242,606,355円

8月のご寄附状況

法人等9社、個人550名の方々から27,478,285円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、銘板の掲示について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

医療法人社団池田ファミリー歯科、Indonesia Alumni Association、一般社団法人WILLBE高等学院、医療法人社団 弘帥会、ニューオータニイン札幌、北海道大学医学部30期会、北海道大学航空部OB会、株式会社丸井足立、囲む会

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	青木佐知子	東 剛己	安達 輝政	阿部 和明	雨夜 隆之	安藤 智昭	井口 晃一
石井 哲夫	石川 朝海	石黒晋太郎	石村 茂幸	井出 肇	伊藤 明男	伊藤 和行	伊藤 尚
井野 智	井上 洋子	井原 博	今井 久雄	今藤 由枝	入澤 秀次	岩泉 智子	岩崎 克巳
上田 昭平	上野 貴希	牛島 康明	宇田川禮一	内田めぐみ	内野 徹	浦川 忠繁	江原 亨
海老田憲人	縁記 和也	遠藤 信哉	王昊 任雅欣夫婦	大居 健二	大川 侑久	太田 清	太田 裕美
大塚 紀幸	大友 巧	大西 信樹	大西 博司	大野 淳	大場 里美	大原 正範	岡崎 朱実
岡部 岳志	岡本 歌織	奥田 英信	奥田 真温	小熊 理照	奥見 花	長田 正樹	小田 哲大
小田原一史	落合 滋子	小野 三郎	賈 立男	加我 稔	鏡山 浩美	笠原 賢明	柏浦 俊紀
片岡 佳三	片木 淳	片桐 友樹	片山 琢	葛 愛軍	加藤 徹	金井 理	金川 眞行
金澤 勝幸	金沢 巧	金山 聖子	椋島 孝典	神川 一俊	亀倉 更人	亀山 巖	川上 善行
河淵 則良	川村 信明	川村 廣樹	河村 裕	河本 充司	川本 和浩	菅野 彰一	喜田 明裕
来田 健造	木下 俊文	KIMDAEIL	木村 加奈	木村 保茂	清塚 雅彦	草野 周	工藤 俊哉
工藤 雅嗣	工藤 芳之	久保 信明	熊谷 正志	栗原 里美	栗本 綾子	小池 昭三	國米 遥香
後藤 明子	小林 祥一	小林 哲也	小松 純也	小南 陽二	小室 智子	薦田 貴久	近藤 賢
近藤 信雄	今野 隆彦	齋藤さおり	齋藤 晋	齊藤 久	齊藤 正浩	齋藤 令子	佐伯 宏樹
境 政人	酒井 佳子	坂倉 和美	坂倉 雅夫	坂本 大介	佐々木浩子	笹原 晶博	佐生 愛
佐竹 正治	佐藤 祥子	佐藤 克哉	佐藤 健一	佐藤 幸三	佐藤 修二	佐藤 淳治	佐藤 孝雄
佐藤 拓道	佐藤 直輝	佐藤 広宣	佐藤 雅彦	佐藤由紀夫	佐藤 詳堂	三升畑元基	志済 聡子
篠原 潤一	渋谷 隆雄	渋谷真希子	宿田 恵子	白津 文夫	白鳥 貴久	城下 裕二	新藤 高士
推名 浅香	末岡 宏	菅原 修孝	杉江 和男	杉田 恵子	杉本 千尋	鈴木 隆	鈴木 貴之
鈴木奈美子	鈴木 伶音	清野 啓介	関根 猛	瀬名波栄潤	瀬山 邦明	添田 忍	高井 奈々

高岡 英俊	高岡 嘉子	高木 孝雄	高木 真弓	高田 康一	高田 弘	高野 聡子	高橋 彩
高橋 敏晃	高橋 道裕	高林 秀樹	高谷 竹史	高山 芳幸	竹内 信彦	竹内 雅幸	竹田 賢
竹田 誠	多田 雄三	田中 利男	田中 紀子	田中飛雄太	谷澤 敏允	種井 善一	田畑 太
田村 昇	塚本 裕子	辻 岳	辻 典子	辻 英幸	辻野 正雄	對馬 秀俊	土家 琢磨
土屋 俊彦	土屋 裕	坪田 敏男	津村 晶	寺澤 陸	徳原 正則	戸田 純子	兔内勇津流
富澤 伸彰	富永 博夫	土門 明	豊田 威信	豊巻 敦人	長浦 泰子	長島 郁夫	長島美年子
中田 沙梨	中塚 英俊	長通 幸大	永原 拓巳	中道 定雄	中村 晃忠	中村 陽	中村賢太郎
中村 知道	中村 嘉之	名倉 章裕	鍋島 孝子	成田 啓	西尾 和郎	西尾 信彦	西田 実弘
西田 泰伸	西村 洋二	沼田 佳奈	根本 隆志	野田 有希	野波 和朗	橋本 武志	長谷 成人
畑 憲明	服部 真紀	花田 秀一	馬場 和宏	林崎 弥生	林 達也	原 直美	原田 幸次
春名 敏弘	東出 憲一	日高 好男	日比 幸人	平塚 和子	平光 玲華	平山 恵美	平山 光久
廣木 秀彦	深谷 徹	福士 幸治	福田ちはる	福田 佳之	福永 悟郎	藤井 靖久	藤沢 紘士
藤田 篤	藤本 健	船津 明	北條 敬之	星 信子	星野 謙蔵	細川 威樹	細田 理絵
堀岡 咲枝	本郷 隆二	本多 真顕	本間 克明	前田 朱実	前田 博	松田 健一	松原 謙一
三浦 隆	三浦 弘明	三木 暁	水嶋 祐治	水野 博文	水野 吉広	水本 博章	溝口 達也
三井 貴彦	皆川 吉郎	南 雅文	三村 千鶴	宮川 知也	宮坂 純一	宮崎 隆志	宮下 隆幸
宮田 信幸	村尾 博司	村岡 崇信	村上 幸夫	村田 勝	村田めぐみ	森 清	安田ふみ子
安丸 定則	柳谷 憲治	矢野 啓介	山形 剛	山口 隆	山口 良文	山下 智史	山田 茂樹
山田侑加子	山田 豊	山中 幹基	山本 延子	余湖 兼右	横井 成尚	横山 考	吉岡 亨
吉田 年克	吉田 広志	吉田 学	吉田 裕子	吉田 幸生	米田 穰	米村 魁十	ラフェイミシエル
李 媛	渡辺 典子	渡辺 光	渡邊 郁恵	渡邊 光明	渡邊 裕		

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法 人）

一般社団法人WILLBE高等学院、北海道大学医学部30期会、北海道大学航空部OB会、囲む会

（個 人）

王昊 任雅欣夫婦、金井 理、金澤 勝幸、亀倉 更人、坂倉 和美、篠原 潤一、西村 洋二、畑 憲明、春名 敏弘、東出 憲一、平光 玲華、深谷 徹、水本 博章、溝口 達也

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスして下さい。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし、ご記入の上、基金事務室に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、基金事務室にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、基金事務室にもご用意していますので、基金事務室にお越しただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

山下裕久氏に紺綬褒章が授与



笠原総長代行と山下氏

北大フロンティア基金に多額の寄附をされた山下裕久氏へ紺綬褒章が授与されました。

山下氏は昭和45年3月に本学医学部を卒業後、昭和57年3月に医学博士の学位を授与されています。北海道大学医学部附属病院勤務、旭川医科大学助教授を経て、平成9年2月に山下内科循環器科クリニックを開業、現在まで院長を務めていらっしゃいます。

今回、本学医学部100周年とご自身

の卒業50周年が重なったことから、ご両親への感謝の意を込めてご母堂様の誕生日である1月31日に、北大フロンティア基金特定資金の学部等支援（医学部創立100周年記念事業）にご寄附いただきました。

伝達式には、笠原正典総長代行、菅原修孝理事、吉岡充弘医学部長が参加し、ソーシャルディスタンスを十分に確保しながら執り行われ、笠原総長代行から褒章、褒章記が伝達されました。

※紺綬褒章とは、公益のために私財（個人の場合500万円以上）を寄附した者を対象に、表彰されるべき事績の生じた都度、各府省等の推薦に基づき審査され、授与されるものです。

国、地方公共団体又は公益団体（公益を目的とし、法人格を有し、公益の増進に著しく寄与する事業を行う団体であって、当該団体に関係の深い府省等の申請に基づき賞勲局が認定した団体）に対する寄附が授与の対象となります。

（総務企画部広報課）

令和2年度北海道大学レーン記念賞受賞者を決定

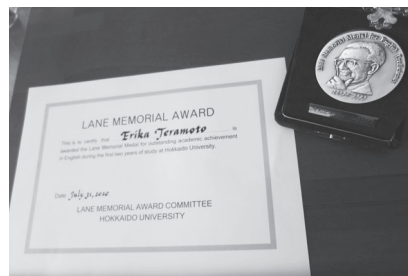
令和2年度北海道大学レーン記念賞を6名の学生が受賞しました。

レーン記念賞は1・2年次の英語の成績が特に優秀な学生を表彰する制度で、昭和40年から「レーン記念奨学金」として始まり、平成9年からは「レーン記念賞」と名を改め、今回を含め396名の学生に授与されています。

今年度は新型コロナウイルス感染防止のため授賞式を挙げていないため、受賞者に賞状、記念メダル及び図書カードを郵送しました。同封した長谷川晃理事・副学長からの挨拶文には「この賞を受賞したことを機会に、皆さんも周りの人から敬愛されるよう、また世界にはばたく人間となるよう、身に

つけた英語力により一層磨きをかけていってください。そして、国際性豊かな人間として周囲から親しまれる社会人を目指して頂きたい」との激励の言葉が記載されました。

（学務部学生支援課）



賞状及び記念メダル

受賞者

文学部	寺本 えりか
文学部	阿部 麟太郎
文学部	尾形 帆乃香
文学部	伊藤 真梨
工学部	メラジ セイエダバルミダ
水産学部	二通 健太

令和2年度北海道大学新渡戸賞受賞者を決定

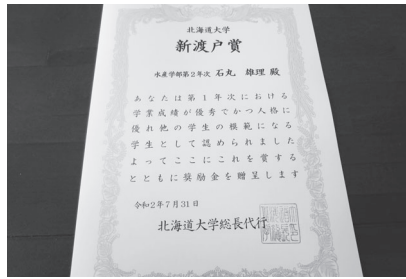
令和2年度北海道大学新渡戸賞を、13名の学生が受賞しました。

新渡戸賞は優秀な学部生の育成を目的として平成17年度に設けられた制度で、1年次における学業成績が特に優秀で、かつ人格に優れ、他の学生の模範となる2年次生に対して、奨励金が給付されます。

今年度は新型コロナウイルス感染防止のため授賞式を挙行政できないため、受賞者に賞状を郵送しました。同封した長谷川晃理事・副学長からの挨拶文には「これを契機に、みなさんには新渡戸博士の理念を受け継ぎ自らの教養を深め、これからも大学生生活をより一

層有意義なものにすると共に、世界に羽ばたく人間へと成長していただきたい」との激励の言葉が記載されました。

(学務部学生支援課)



新渡戸賞賞状

受賞者

文学部	鈴木陽彦
教育学部	平田千鶴
法学部	杉中美友
経済学部	西川友彰
理学部	長谷川雄也
工学部	大槻翼
農学部	中里清孝
獣医学部	青柳博太
水産学部	石丸雄理
医学部(医)	鉢呂広介
医学部(保健)	山崎智司
歯学部	小田彩香
薬学部	宮沢桃子

令和2年度北海道大学宮澤記念賞授与者を決定

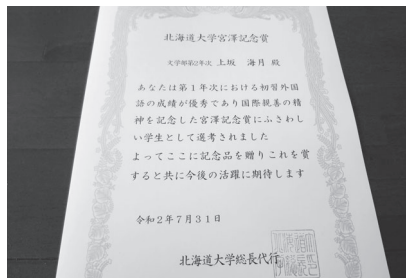
令和2年度北海道大学宮澤記念賞を、10名の学生が受賞しました。

宮澤記念賞は、1年次に履修した外国語科目のうち、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語及び韓国語の成績が特に優秀な学生を表彰する制度で、今回が第6回目の表彰となりました。

今年度は新型コロナウイルス感染防止のため授与式を挙行政できないため、受賞者へ賞状及び図書カードを郵送しました。同封した長谷川晃理事・副学長からの挨拶文には、「この賞の主旨を十分ご理解いただき、今後、ますます

の活躍を期待します」との激励の言葉が記載されました。

(学務部学生支援課)



宮澤記念賞賞状

受賞者

文学部	小林凌雅
文学部	春日井天那
文学部	田中優里香
文学部	倉林ひかる
文学部	鈴木陽彦
文学部	福士環
文学部	上坂海月
教育学部	田中愛実
法学部	中野友温
医学部(医)	工藤義也

産学・地域協働推進機構 樋泉客員教授が放送批評懇談会 第11回志賀信夫賞を受賞

産学・地域協働推進機構の樋泉 実客員教授（元北海道テレビ放送社長）が第57回ギャラクシー賞において、第11回志賀信夫賞を受賞しました。2019年秋に受賞した旭日中綬章に続き、権威ある賞を受賞されました。

ギャラクシー賞は、放送批評懇談会が、日本の放送文化の質的な向上を願い、優秀番組・個人・団体を顕彰するために創設され、「志賀信夫賞」は、番組制作に留まらず、幅広い業績を対象に、広く放送文化、放送事業の発展に顕著な貢献をした個人を顕彰する賞です。

樋泉客員教授は、地方テレビ局としては異例の全国区番組となった「水曜どうでしょう」の多角的な展開や、アジア地域での北海道ブランドが確立されたと言われている、衛星放送番組「北海道アワー」の制作等、革新的な取り組みを先導し、数々の功績をあげられました。

選評では、「北海道テレビにおいて、『地域』を事業設計の基点に置き、ローカル民放局にとっては向かい風となりがちなメディア環境の変化を智恵と勇気で追い風に変え、ローカル民放事業の可能性を提示し続けた。海

外に映像コンテンツによって『アジアに際立つ北海道』をアピールする道を切り拓いて、北海道をアジア有数の観光拠点に発展させた」と高く評価されております。

また、樋泉客員教授は、北海道テレビ放送に在職中から産学連携活動に熱心で、包括連携協定の締結や国立大学と私立大学の連携協定も手がけており、本学における産学連携を力強く推進しています。

（研究推進部産学連携課）



樋泉客員教授



授賞式の様子

竹本内閣府特命大臣と青山文部科学政務官が北海道大学を視察 —世界に伍するスタートアップ・エコシステム拠点—

8月26日（水）、竹本直一内閣府特命担当大臣（科学技術政策）と青山周平政務官が本学の北キャンパスを訪れ、スタートアップ事業を展開するベンチャー企業者との懇談、アントレプレナー教育を受けた学生との意見交換を行い、関連施設を視察されました。

今回の視察は、内閣府事業の「世界に伍するスタートアップ・エコシステム拠点形成戦略」における推進拠点として「札幌・北海道スタートアップ・エコシステム推進協議会」が選定されたことにより、同日の午前中に札幌市の関係者等との意見交換を行った企画の一環です。

午前中に大通にて行われた意見交換会では、札幌市からの概要説明、スタートアップ企業からプレゼンテーションがあった他、本学からは、山口淳二副学長が本学における在校生と同窓生

のエコシステム、人材育成の実績、スタートアップ支援制度などを説明しました。

竹本大臣は、午後から本学の北キャンパスへ移動し、大学の敷地内に整備されている北大ビジネススプリング（北大BS：中小企業基盤整備機構）を訪れ、スタートアップ支援の説明を受けた後、入居企業3社の研究室を訪れ、起業家と懇談されました。

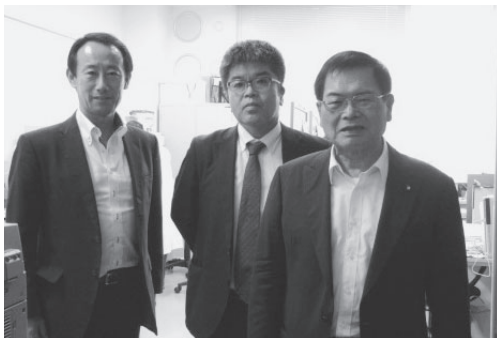
その後、フード&メディカルイノベーション拠点（FMI棟）で、化学反応創成研究拠点（ICReDD）の視察に訪れていた青山政務官が合流し、COI「食と健康の達人」拠点プロジェクトリーダーの吉野正則客員教授による事業内容説明に熱心に耳を傾けていました。

引き続き、ベンチャー創出関係の取組について、本学が実施している文部

科学省「次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXT）」の責任者である瀬戸口剛工学研究院長から事業の取組について説明があった後、事業実施総括者である金子純一産学・地域協働推進機構副機構長から、アントレプレナー教育の具体的な取組み状況やこれまでの成果について説明がありました。

最後に、アントレプレナー教育を受講した7名の学生との対話コーナーがあり、竹本大臣は、「北海道に寄せる期待は大きく、日本のシリコンバレーになることを期待している」と述べられました。また、青山政務官は「近い将来の日本を背負う若者の熱意をひしひしと感じた」と述べられました。

（研究推進部産学連携課）



北大BS入居企業を視察する竹本大臣（右）と江崎禎英大臣官房審議官（左）、中央は株式会社エヌビーイー研究健康所の高山喜好代表取締役



学生との対話の様子



学生との対話の様子：右奥が竹本大臣、その左が青山政務官



学生との集合写真

青山文部科学大臣政務官が化学反応創成研究拠点（ICReDD）を視察

8月26日（水）、青山周平文部科学大臣政務官が、創成研究機構化学反応創成研究拠点（ICReDD（アイクレッド））の視察に訪れました。

はじめに、西井準治理事、村田善則理事との挨拶の後、前田 理拠点長から世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）の採択拠点であるICReDDの概要説明がありました。青山政務官は、ICReDDの研究や国際化の取り組みに興味深く耳を傾けていました。

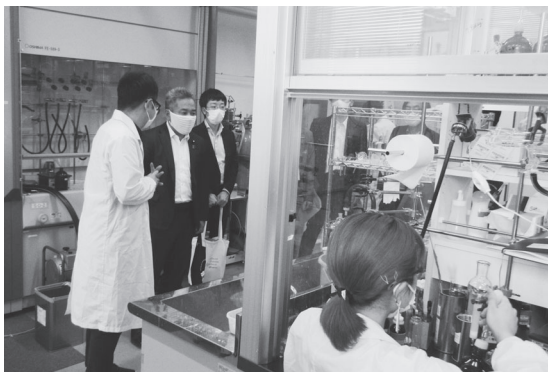
引き続き、拠点の実験室や研究室を見学され、なかでも異なる分野の研究

者が同じ空間で研究を行うMix-Lab（ミックスラボ）及びMix-Office（ミックスオフィス）においては、研究現場の研究者から計算科学・情報科学・実験科学の三分野による融合研究の取り組みについて説明を受け、進行中の研究内容等について熱心な質疑が行われました。さらに、有機化合物中の原子のつながり方の分析に用いられているNMR装置や有機・無機化合物の三次元立体構造の分析に用いられているX線回析装置等の拠点の最先端の研究設備・機器を見学されました。

その後、拠点の若手研究者らとの意見交換会では、前田拠点長から自身の競争的研究費の獲得経緯や研究成果についての説明があり、続いて、若手研究者らと競争的研究費の制度上の課題と改善方策、国に期待する支援内容等について活発な意見交換が行われました。

視察を終えた青山政務官からは、「大変参考になった」との言葉と謝意が述べられました。

（化学反応創成研究拠点（ICReDD））



Mix-Lab（ミックスラボ）を視察する青山政務官（左から二人目）



若手研究者らと活発な意見交換を行う青山政務官（左）



前田拠点長、若手研究者らとの集合写真

札幌キャンパスで特定外来生物防除を実施

7月20日（月）、札幌キャンパスにて、通算12回目となる特定外来生物防除を、大野池周辺、弓道場周辺及び地球環境科学研究所北側周辺にて実施し、学生1名、教職員28名が参加しました。

この活動は、「北海道大学キャンパスマスタープラン2018」に掲げている、自然・生態環境の維持・管理・保

全の取り組みの一つであり、侵略的外来植物の防除を推進するものです。

本年はサステイナブルキャンパスマネジメント本部生態環境マネジメントワーキンググループ長である愛甲哲也農学研究所准教授の指導のもと、新型コロナウイルス対策や熱中症予防に配慮して、約2時間の作業を行い、特定外来生物（植物）であるオオハンゴンソウ約3

m²及び要注意外来生物（植物）であるドクニンジン約6 m²の、計約9m²を防除することができました。これら防除した結果は、年末に環境省へ報告することとしています。

（施設部環境配慮促進課）



愛甲WG長による活動の趣旨と防除方法の説明



オオハンゴンソウ生息状況



弓道場周辺で集められたオオハンゴンソウ（手前）とドクニンジン（奥）

■ 部局ニュース

北海道大学納骨堂慰霊式を挙行

医学院・医学研究院・医学部，歯学院・歯学研究院・歯学部，保健科学院・保健科学研究院・医学部保健学科，北海道大学病院では，7月28日（火）に北海道大学納骨堂（札幌市豊平区平岸）において，医学及び歯学の教育・研究のため尊い御遺体をささげられた

御霊の御冥福をお祈りする慰霊式を執り行いました。

慰霊式には，笠原正典総長代行，吉岡充弘医学院長・医学研究院長・医学部長，八若保孝歯学院長・歯学研究院長・歯学部長，伊達広行医学部保健科学院長・保健科学研究院長・保健学科

長，秋田弘俊北海道大学病院長ら21名が参列し，参列者全員による黙祷及び献花を行い，厳粛のうちに慰霊式が終了しました。

（医学院・医学研究院・医学部）



参列者による黙祷



献花をする笠原総長代行



献花をする吉岡医学部長

医師・歯科医師のための臨床解剖実習室（CAST-Lab.）を開設

総合的な臨床解剖の実施施設である臨床解剖実習室（CAST-Lab.）を医歯学総合研究棟1階に開設しました。

臨床解剖実習室（CAST-Lab.）は，ご献体を使用した臨床医学の教育研究を行う専用施設であり，手術室と同等の設備を有し，手術台や内視鏡手術装置，放射線透視装置などの各種医療機器を完備しています。

医師・歯科医師によるご献体を使用した手術手技研修を実施する際には，これまで学部学生用の解剖学実習室を使用していたため実施内容に制約があり，実施期間も学生実習のない時期に

限定されていました。しかし，この度の臨床解剖実習室（CAST-Lab.）の開設により，開腹手術，内視鏡手術，IVR（画像下治療）などの様々な手術手技研修を通年で実施できるようになりました。また，建物内にはCTスキャン，MRIを有しているため，新たな手術手技の研究や新規の医療機器の開発などのご献体を使用した臨床医学研究も実施できます。

8月20日（木）には落成式が行われ，内覧会ではCAST関連事業事務局の七戸俊明診療教授（消化器外科Ⅱ）の案内により，秋田弘俊病院長，吉岡

充弘医学研究院長等の関係者が，実習室内を興味深く見学しました。

（北海道大学病院）



実際の手術室と同様な環境の実習室内



落成式での関係者記念写真



内覧会の様子



環境科学院で10月入学入試及び4月入学秋季入試をオンラインで実施

環境科学院では、例年8月下旬に、10月入学入試及び4月入学秋季入試を実施しています。本学院は、母体となる学部を持たないため、例年、海外を含め全国各地から数多くの受験者が札幌キャンパスに集まります。しかし、本年は、新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たず、予定どおりの実施が不透明な状況となったため、受験者が国内外の移動、宿泊に関して不安を感じたり、受験自体が困難になったりしないよう、通常の「筆記試験」及び「口述試験」は実施せず、事前に

提出してもらう「書面審査」と「オンライン口述試験」による実施に変更しました。

本学院ホームページにおいて、出願期間前の6月上旬に試験実施方法を変更する旨を掲載し、同下旬に試験実施方法の詳細及びそれに伴う追加出願書類について周知を行いました。その結果、出願者は163名（修士課程137名、博士後期課程26名）でした。

その後、受験者全員に対し、コース毎に事前の接続テスト及びオンライン受験に関する注意事項の周知を行った

うえで、海外の受験者8名、国内の受験者144名を対象にZoom等を用いてオンラインで入試を実施しました。また、入試期間中は、執行部教員及び事務部職員が待機する試験実施本部を設け、各専攻の担当者とオンラインで連携をとり（写真）、学院参画教員全員の協力のもと、全コース共目立ったトラブルはなく無事終了しました。

（環境科学院）



試験実施本部の様子
（スクリーン上で各専攻の担当者と進行状況を相互連絡）



試験実施本部の様子
（口述試験の進行状況をチェック表に記載）

■ 諸会議の開催状況

教育研究評議会（令和2年8月26日）

議 題・教員の懲戒について

報告事項・なし

※規程の制定，改廃については，「学内規程」欄に掲載しています。

■ 学内規程

国立大学法人北海道大学契約職員就業規則等の一部を改正する規則

（令和2年9月1日海大達第126号）

令和2年9月1日に労働者災害補償保険法が改正されることに伴い，所要の改正を行うとともに，併せて規定の整備を行ったものです。

■人事

令和2年8月4日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 大学院経済学研究院教授	三 橋 葉 子	金融庁特別検査官

令和2年8月11日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 (転出) 金融庁開示情報調整官	佐々木 潔	大学院経済学研究院教授

令和2年8月31日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【役員】 (任期満了)	竹 谷 千 里 堀 俊 介	監事 監事

令和2年9月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【役員】 監事 監事	高 橋 朋 江 石 川 信 行	北海道総務部参与 石川公認会計士事務所代表
【教授】 大学院理学研究院教授 大学院情報科学研究院教授	佐 藤 光 輝 赤 井 恵	大学院理学研究院講師 大学院情報科学研究院准教授

新任監事紹介

令和2年9月1日付

監事に



たかはし ともえ
高橋 朋江 氏

令和2年8月31日限りで竹谷千里氏が任期満了となり、その後任として、高橋朋江氏が発令されました。
任期は、令和6年8月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和36年3月23日
昭和59年3月 北海道大学理学部卒業
昭和60年4月 北海道庁
平成25年4月 同 総務部法人局大学法人室参事
(北海道公立大学法人札幌医科大学(参事)派遣)
平成27年6月 同 総合政策部政策局参事
平成29年4月 同 石狩振興局副局長
令和元年6月 同 総務部参与
(北海道公立大学法人札幌医科大学(事務局長)派遣)

監事に



いしかわ のぶゆき
石川 信行 氏

令和2年8月31日限りで堀 俊介氏が任期満了となり、その後任として、石川信行氏が発令されました。
任期は、令和6年8月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和43年3月26日
平成3年3月 北海道大学教育学部卒業
平成5年10月 朝日監査法人(現あずさ監査法人)札幌事務所
平成9年8月 石川公認会計士事務所代表

新任教授紹介

令和2年8月4日付



経済学研究院教授に

みつはし ようこ
三橋 葉子 氏

会計情報部門会計情報分野

最終学歴

ロンドン大学大学院 (LSE)
金融法学修士課程修了 (平成18年10月)

専門分野

金融・資本市場に関する制度とその運用実務

令和2年9月1日付



理学研究院教授に

さとう みつてる
佐藤 光輝 氏地球惑星科学部門
宇宙惑星科学分野

最終学歴

東北大学大学院理学研究科博士課程後期3年の課程修了 (平成16年3月)
博士 (理学) (東北大学)

専門分野

超高層大気物理学



情報科学研究院教授に

あかい めぐみ
赤井 恵 氏情報エレクトロニクス部門
集積システム分野

最終学歴

大阪大学大学院理学研究科博士後期課程 修了 (平成9年)
博士 (理学)

専門分野

表面科学, 分子エレクトロニクス, ナノテクノロジー, ニューロモルフィック科学

訃報

名誉教授 こじま けんじ 小島 賢治 氏
(享年97歳)



名誉教授 小島賢治先生が、令和2年7月26日(日)にご逝去されました。先生は、大正12年3月28日に東京都に生まれ、昭和21年9月に北海道帝国大学理学部物理学科を卒業後、同年10月北海道帝国大学低温科学研究所助手、同23年5月北海道大学低温科学研究所助手となり、同34年4月には北海道大学から理学博士の学位を授与されました。昭和35年1月講師、同38年5月同助教授を経て、同45年5月同教授

に昇任され、同61年3月停年により退官し、同年4月北海道大学より名誉教授の称号を授与されました。

先生は、昭和35年から2年間、米国オハイオ州立大学極地研究所において南極氷床上の積雪の圧密に関する研究に従事し、南極における積雪の水化過程を明らかにしました。この研究と積雪結晶の変態の研究の成果に対して、昭和44年10月に日本雪氷学会賞学術賞を受賞されました。また、昭和45年5月、低温科学研究所に融雪水の水資源としての有効利用と融雪災害の軽減に関する基礎研究を目的とした融雪科学部門が設置されてからは、その部門主任として融雪機構、特に積雪表面の熱収支の微気象学的研究を行い、北海道の最多雪地として知られる幌加内町母子里地区の流域を調査対象に、融雪熱収支、融雪量分布、融雪流出等の総合的な研究を推進されました。

39年余にわたる北海道大学在任中に

は大学院理学研究科地球物理学専攻の学生を受け入れて多くの興味深い研究を指導し、有能な人材を各方面に送り出しました。学外にあっては、日本雪氷学会の役員を歴任するとともに、新幹線雪害対策研究委員会のほか、道央自動車道の雪害対策等にも参画されました。さらに、自然災害科学総合研究班雪氷災害専門分科会幹事を務め、雪氷対策に関する社会的要請にも応えられてきました。平成6年9月には、これまでの優れた研究業績に対し日本雪氷学会より功績賞が授与され、また、平成12年には長年にわたる教育・研究等への功績と我が国の学術振興の発展に寄与された功績から春の叙勲(勲三等旭日中綬章)を受けました。

先生の多大なるご貢献に感謝するとともに、ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

(低温科学研究所)

名誉教授 すかはら かずゆき 菅原 一幸 氏
(享年72歳)



名誉教授 菅原一幸先生が令和2年7月29日(水)に逝去されました。先生は昭和46年京都大学薬学部を卒業後、大学院へ進学され、昭和51年に博士課程を修了されております。所属研究室は、山科郁男教授が主宰される生物化学教室でした。大学院修了後から、昭和57年3月まで米国シカゴ大学に留学され、Albert Dorfman教授のもとで研鑽を積み重ねました。帰国後は、京都大学の出身講座の職員となり、平

成2年まで助手として勤務されました。

平成2年4月より、神戸女子薬科大学生理化学教室に助教授として異動され、平成5年に教授に昇格されたのち、平成18年まで13年間神戸薬科大学生化学教室(平成6年校名・講座名変更)の教授を務められました。

平成18年4月より、北海道大学の新しい大学院、先端生命科学研究院に異動され、新天地の新しい状況下で「プロテオグリカンシグナリング医療応用研究室」を立ち上げられました。京都生まれの先生は、神戸時代も京都から通っておられましたので、シカゴ時代を除き、京都以外の土地に居住されることは初めてでしたが、札幌の街と北海道の大地を大変気に入っておられました。

先生の最も大きな業績は、グリコサミノグリカン生合成酵素の世界初のクローニングとグリコサミノグリカンが胚発生(特に細胞質分裂の段階)に不

可欠の因子であることを解明したことです。それ以外にも、グリコサミノグリカン、プロテオグリカンの構造、生合成、分解、機能の研究を幅広く行い、この分野では世界で最も大きな貢献をした研究者の一人です。

北大での教授としての勤務期間はわずか5年でしたが、その世界的で先駆的な功績が評価され、平成24年には名誉教授の称号を授与されております。先生は平成25年3月まで特任教授として、その後平成27年3月まで学術研究員として勤務され、北海道大学のさらなる発展に貢献されてきました。京都に素敵な自宅をお持ちであるにも関わらず、ギリギリまで札幌に居住され、本当に北海道が好きな先生でした。

先生の長年に渡るご功績に敬意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

(先端生命科学研究院)